
編集後記

ひとりの日本は日の出のような勢いで成長を遂げていた。それがここへ来て鈍化し低迷している。なぜ、こんなことになったのであろうか。少子化などの問題もあるが今に始まった問題ではあるまい。日本人の特徴は「真面目さ」、これが日本の成長を支えてきたのは間違いないであろう。品質の良さと納期の遵守はまさにこの結晶であろう。しかし「真面目」であることに問題はないであろうか、「真面目」ゆえ、視野が狭く、さまざまな状況に対応できないことで逆に足を引っ張ってはいないであろうか。

今、日本の代表企業であるトヨタがリコール問題で揺れている。アメリカ議会の公聴会を中心にトヨタへの圧力、逆風はすさまじい。豊田章男社長は「真面目」に説明と謝罪をくりかえしていた。リコールに対して情報不足かトヨタの対応が遅く、問題を大きくしたことは否めないが、アメリカでは中間選挙を控え、政治家の一票ほしさのパフォーマンスもトヨタたたきを加速していると言われる。こんなアバウトでグローバルな世界で対抗するには、「真面目」だけでは対抗できまい。国家税収のうち一兆円以上がトヨタ関連の貢献という税収を減らさないためにも、一企業の問題と視野を狭めず、日本企業全体の問題としてグローバルに捉え、支援はできないであろうか。日本政府も政治家も、経済産業省、外務省の役人もトヨタ支援のために訪米して説得と理解を求めべきであろうか。そういうグローバルな対応ができるようになれば、日本の再生は間違いないと思う。

一方、医療崩壊が叫ばれる中、現在、診療報酬の改定作業が行われている。今年度の改定は大幅な改定がないとすると、次回2012年には診療報酬と介護報酬の同時抜本的改革が予定され大幅な改定がされるかもしれない。そして翌年には後期医療制度が廃止され新制度が導入される予定となっている。今後中間報告などが発表されるであろうが、国民のための医療としてグローバルな視点で注目していきたい。

さて、本号の「Consensus Conference 2009」で、7題の透析医療の抱える諸問題について、「臨床と研究」で6題の今日的諸問題について、それぞれ優れた見解を提示していただいている。そして公募助成論文では、患者と家族の間にセルフケア・介護・ターミナルケアについて、「意識や理解」にズレがあり、医療者が意識的に話し合う場を設けることが推奨されている。また、医会雑誌の特徴である「医療制度」、「医療安全対策」、「実態調査」には5編の論文が掲載されている。いずれも、先生方の日常診療に必ずやお役に立つものであり、ご一読をお願いしたい。

広報委員 杉崎弘章